



・「子ども研修会」

八月十九日は、わたしたち勝林寺の「子ども研修会」がありました。

もう四〇年も前から毎年こうして続いているといふことを、お手伝いにこられる仏婦会員さんから聞いております。

「わたしも小学校を上がるまで、まいとしこの「子ども研修会」にきていたんですよ」といまその方は孫を連れて参加なさっているのです。

私は、遠いところから嫁いできて、きてからも勤めがあつて、お寺さまには全然といつていいほどお参りもしたことはありませんでした。自分の子供たちも、当時まだ元気だった祖母に任せっぱなしで、わたしはこんな会とこころが、お勤めが定年で終わった途端に、仏婦のそれも役員にされて仕舞いました。なにも分からないまま、みなさんに助けられて、今年で二期勤めさせていただいております。

「こども研修会」と言うのは、まる一日ですが、いろいろ盛りだくさんです。

お寺の本堂におまつりしてある仏様のこと。ほとけさまを挙げるときの作法。その他出石町内の寺めぐり。仏教童話のビデオなど。自由押しにプログラムが進みます。そのまた合間にソレハソレハ楽しいゲームがあります。門徒総代さんのお一人がすすめてくださいます。

仏婦役員を中心にしてひとびとでいろいろ案を練った工作手芸も、お母さんに手伝つてもらひながら完成。

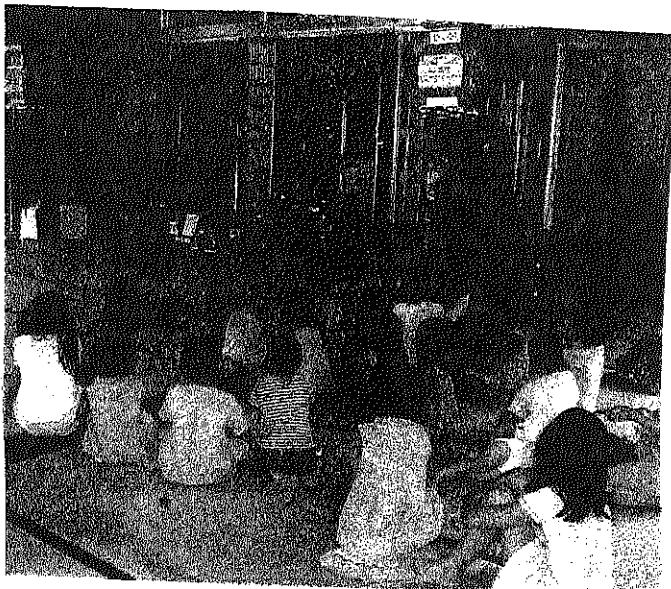
ワイヤライガヤガヤやつていてるうちに、子供もおとなも、みんなこころが溶け合つて、あつと言つて間に一日が済んでしまいました。

最後の極め付けは、バーベキューと花火大会でした。これには仏社の方々の応援がありました。

私自身、ほだけさまとの関係は葬式とか法事とか、そんな陰気なときにしかおがんだことも実はありませんでした。

「ほだけさまって、こんなたのしい賑やかなところに本当はいてくださったんだ」

クタになっていたのに、みんなと花火なんかしながら、わたしはふと、そんなことを思わせていただいて、ああ、今日一日よかつたわーと、なんともいえないさわやかな気分になりました。



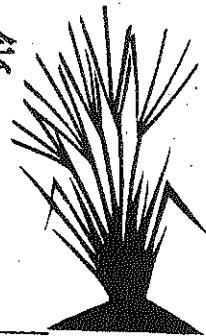
秋の彼岸会

九月一十一二一日

午後2時 法要・法話

合同役員会

南無阿弥陀仏の如来の光明にてらされて始まりながら完成。



平成十五年 全戦没者追悼平和講演会

△△法要

女

を勤修するにあたり

三世十方の諸仏如來

外觀 平和豊饒

ひとみな安泰を謳歌して

謹んで申しあげます。

戦後五十六年

つらつら現在の世の中を観じますに

社会の内実には 例え少子高齢化がすすむなかにちに青少年凶悪犯罪が多発しております。熟年層の自殺者も近年激増しております。

科学医療技術が急速に進歩しているにもかかわらず、一方、ひとのいのちを平氣ででもざむざ踏みにじる風潮が世をおおつていることを見逃すわけには参りません。

社会の内に そうした状況が生まれてくるのは、ほかならぬこの社会を取り巻く国が世界全体が 自分の利益 その国の国益のためならば、正義と称し 聖戦ととてて 他国を侵略しひとのいのちを奪うことも憚らない、そんな不条理な論理が横行しているからです。

九月のことよみ

八月三十日・三一日ビハーラ全国集会(芦原)

一日 阪神南組寺族同朋講座

二日 はこべの会

三日 教区連研研修会(神戸)

四日 兼井太一氏宅法事

五日 中島繁喜氏宅法事

六日 ボランティアり集い

七日 宮崎省吾氏7回忌法事

八日 重陽の節句

九日 日高町

十日 兼井太一氏宅法事

十一日 中島繁喜氏宅法事

十二日 仏社恒昇・ブロッサム研修会(勝林寺)

十三日 検診

十四日 西幸寺彼岸会(神戸)

十五日 出石組連研委員会

十六日 千鳥淵戦没者国立墓苑参拝

十七日 中藤清水家13回忌法事

十八日 朗読ボランティアあすなろ編集

十九日 出石町役場

二十日 秋彼岸升平△△・合同役員会

二十一日 長專寺報恩講

二十二日 朗讀ボランティアあすなろ編集

二十三日 出石組連研委員会

二十四日 長專寺報恩講

二十五日 みのりを聞く会

二十六日 連研修了式(本山)

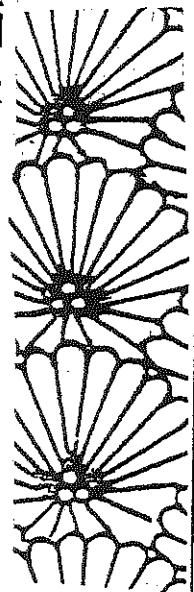
二十九日 朗讀ボランティアあすなろ

、自己中心的な自分本位の論理を振り回して生きようとする そういうあさましいわたしであります。

そしてまた 南無阿弥陀仏のお呼び声は、
「自力無効」自分本位の理屈では自他共に滅
びるよ。自他対立を越えた無量無辺の如來の命のよびこえをよりどころに世界みな兄弟のいのちを生きましょう。

今日のこの戦没者追悼の法要を機縁として、懺悔と歡喜のお念仏にめざめ老後を生きるその生き方を、子や孫に伝えたいと念願いたします。

潮干が始まつた。



もう20年前にわたしも、あの『連研』と言うものを終了しています。以後、お寺のご法座には、まあがんばってお参りして聞かせていただいているつもりです。

この夏休みに姉の子供が、涼しい但馬で受験勉強させてと、わたしの家で預かっていました。その子が勉強するのに連れて、わたしもやって見ようと『連研』のときの教科書出して読み直して見て、びっくり。

60やっと出たばかりなのに、こんなにびといとは思いませんでした。全然きれいにわすれてしまっているのです。

いえいえそればかりでは有りません。現に例のパソコン。「パソコンの初步」とか「おとしよりのパソコン術」とか、何冊かでとりくんで見たのですが、ちょっと空白ができると、皆目バーになってしまふのです。何回も最初から挑戦するのですが、結局ダメ。とまあこういう具合で、息子の嫁はんからも笑われっぱなし。

悲嘆にくれる私を、息子がなぐさめてくれるのです。

「わしも連研受けたけど、あれはどうちゃんと、覚えるものとは違うとオモワ。むしろ頭からっぽにして何度も何度も繰り返し聞かせてもらうものやと思うで。受験勉強見たいな知識とは違うのやないか。」わたし。「それはそうやと分かってるで、繰り返し聞いているのやが。そのときはわかっただつよりも、おれ、すぐ忘れてしまうんや。それが情けないんや。」

この息子。能登の漁師の子で、蓮如様が今も生きてはる土地の生まれですので、蓮如さんのことは何でもよう知つていてよう言うて聞かせてくれます。

「知ったと思うのが間違いのもとです。間違わんように、蓮如さんは〈溝をさらえる〉つまりで何回も何回も聞かせ聞かせてもらえて

うとしてもダメ。それ、信心とはいわんの。いまもはたらく如来さまを、呼び声「南無阿弥陀仏」のなかに唯々聞かせてもらうだけ。唯それだけ。と里のはあちゃんから何度も何度も聞かせてもらつたんです。

何か、わかったようでわからんことでしたが、ただ、あんまりわからんことにイライラせんでもよかったです。と楽になりました。



葬儀

七月七日 祭事
七月十日 出石山

矢根 九十六歳

七月七日 修業
七月十日 出合市場
九十六歳

出石組御同朋五十周年記念結集大会あいさつ

大会責任者 前組長 内田 宏園

慈光のもと皆さま益々ご清祥にてお念佛ご相続のこととお慶び申し上げます。日ごろは、なにかと兵庫教区出石組に対し、ご支援ご協力を賜り衷心よりお礼を申し上げます。

さて、浄土真宗本願寺派ご門主即如様は、ご消息の中で「現在、国内にある差別の中、部落差別は封建制身分社会より引き継がれ、市民的権利と自由を侵害する深刻な社会問題であり、その解決は国民的課題であるとともに、宗門にとって法義上、歴史上避けて通ることのできない重要課題であります」と私たち宗門人の課題を明らかにされ、更に「親鸞聖人の一切の有情はみなもって世々生々の父母兄弟なり」というおこころを体して、自ら生き方を変えていくことが大切です」と私たちの生き方を方向づけておられます。

我が教団は、「御同朋の社会をめざして」を目標に取り組み、今年五十年をむかえました。この五十年を一つの節目として出石組は、記念結集大会を開催し、ともどもにみ教えを聞き、信心に生かされるよろこびを伝えあい、御同朋の社会をめざして歩む決意を新たにしたいものだと考えます。

アーティスト

『御同朋の社会をめざして』 聞こう、伝えよう、阿弥陀仏のこころ。この出遇いのなかで、

今、私たち念佛者がともに集います。
同朋(なかま)とともに輝きます。

親鸞さまが、お念佛をとなえながら願われた社会を「御同朋の社会」と言います。だれもだれもが、お念佛(如来のおよびごえ)のなかの兄弟姉妹として、はげましあいながら感謝しながら、いのち輝いて生きる社会です。

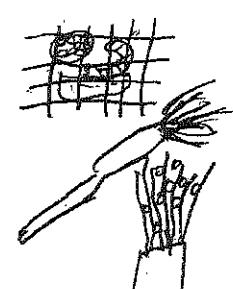
勝林寺こども研修会

おともだちから
ありがとう

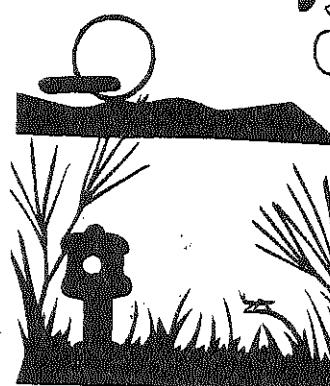


大石かな
子どもがいありがとうございました。
たのしかったこと

- ①ケーブル
- ②花火
- ・あいしがたそ
- ①ハートキュー



大石智



テレホン法話 0796-52-5800